

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、ご報告いたします。

## 記

1. 企画名: 講演会 & ワークショップ 「シリア紛争と国際協力」
2. 【形態: 相談対応サービス・講演・セミナー】
3. 出張者氏名(団体名五十音順): 安達三千代、阿部真理子、西村梨沙
4. 主催等団体名: 「シリア難民の子どもたちを学校へ」プロジェクト実行委員会 in 東北
5. 実施場所ごとの日時、場所、集客人数、会場借料、内容、参加者の感想、所感
  - ① 5月8日(木) 18:30~20:30 山形市男女共同参画センター「ファーラ」 会場借料: 無料  
参加者: 15人(山形県内の元 JOCV、教員、公務員、団体職員、学生、会社員等)

内 容	担当
1. 主催者あいさつ	IVY 代表理事 枝松
2. ODAとNGO相談員についての広報	阿部
3. シリア入門ワークショップ 1)シリアと周辺の国クイズ(白地図) 2)シリアの歴史年表クイズ 3)クルド人クイズ	阿部
4. シリア、イラク、クルド人自治区の概要	安達
5. シリア難民児童への教育支援事業報告—東北からシリアへ	西村
6. 質疑応答、ヌガー、なつめやし等の試食	西村、安達、阿部
7. 主催者終わりのあいさつ	IVY 理事 西上
8. 個別の相談対応	安達、阿部、西村

参加者の感想: 難民に対する日本の NGO の活動を知る機会となり、自分が思っていた状況と違っていることにも気付きました。

- ② 5月9日(金) 18:30~20:30 エル・ソーラ仙台 会場借料: 8,500 円  
参加者: 28人(元 JOCV、教員、公務員、団体職員、学生、会社員等)

内 容	担当
1. 主催者あいさつ	安達
2. シリア入門ワークショップ 1)シリアと周辺の国クイズ(白地図) 2)シリアの歴史年表クイズ 3)クルド人クイズ	阿部
3. シリア、イラク、クルド人自治区の概要	安達
4. シリア難民児童への教育支援事業報告—東北からシリアへ	西村
5. 質疑応答、ヌガー、なつめやし等の試食	西村、安達、阿部
6. ODAとNGO相談員についての広報	阿部
7. 主催者終わりのあいさつ	IVY 理事 堀野
8. 個別の相談対応	安達、阿部、西村

参加者の感想: 小さいころから、人助けや UNICEF に興味があったが、今回更に理解や興味が深まったように思います。日本の NGO が、イラクで地道に堅実に活動していることを知ることが出来、自分に取っても非常によい機会となりました。

- ③ 5月10日(土) 10:00~14:00 青森県水産ビル 会場借料: 8,000 円  
参加者: 21人(青森県内のマスコミ、元 JOCV、公務員、教員、学生、会社員、主婦等)

内 容	担当
1. 主催者あいさつ	青森県 JOCV
2. ODAとNGO相談員についての広報	安達
3. シリア入門ワークショップ	JICA 青森デスク
4. シリア、イラク、クルド人自治区の概要	青森県 JOCV

5. シリア難民児童への教育支援事業報告—東北からシリアへ	西村
6. 質疑応答	西村、安達、阿部
7. 主催者終わりのあいさつ	青森主催者
8. 交流会（シリア料理の試食）	
9. 個別の相談対応	安達、阿部、西村

参加者の感想：青森でこのような国際協力に関する催しが少ないので、大変勉強になりました。国際協力に携わっている人たちが、東北にもたくさんいることを知り、自分にも何か出来ないか考えるきっかけになりました。

- ④ 5月10日(土) 18:00~20:00 いわて県民情報交流センター(アイーナ) 会場借料:6,430円  
参加者:31人(岩手県内の岩手県キャンプ協会会員、教員、学生、会社員等)

内 容	担当
1. 主催者あいさつ	安達
2. ODAとNGO相談員についての広報	阿部
3. シリア入門ワークショップ	JICA 青森デスク
4. シリア紹介	青森県JOCV
5. シリア難民児童への教育支援事業報告—東北からシリアへ	西村
6. 質疑応答、ヌガー、なつめやし等の試食	西村、安達、阿部
7. 主催者終わりのあいさつ	安達
8. 個別の相談対応	安達、阿部、西村

参加者の感想：ずっと国際協力に興味を持っていたので、今回のイベントに参加して本当に良かった。震災で被災したが、世界各地から支援を受けたので、その恩返しとして自分に出来ることを探していきたいと思った。

- ⑤ 5月11日(日) 13:30~16:00 秋田県青少年交流センター(ユースパル) 会場借料:4,800円  
参加者:27人(秋田県内のマスコミ2社、元JOCV、教員、公務員、学生、会社員等)

内 容	担当
1. 主催者あいさつ	秋田県JOCV
2. ODAとNGO相談員についての広報	安達
3. 秋田県、青森県のシリア JOCV、JICA専門家紹介	安達
4. シリア紹介	青森県JOCV
5. シリア難民児童への教育支援事業報告—東北からシリアへ	西村
6. 質疑応答	西村、安達、阿部
7. シリア料理の試食	青森県JOCV
8. 主催者終わりのあいさつ	安達
9. 個別の相談対応、マスコミ取材	安達、阿部、西村

参加者の感想：シリアについては、ニュースで流れる情報以外知るすべはなかったので、今回の催しで理解が深まったように思います。日本のNGOで働く若い人達の、難民の教育支援に取り組んでいる姿に感心しました。

## 6. 所感及び成果

今回の出張サービスを通じ、青森県、秋田県の元シリア協力隊OBOGのグループ「シリア難民の子どもたちを学校へ」プロジェクト実行委員会 in 東北とつながることができた。また、当団体も含め、いずれのグループもODAとつながりがあることから、NGO相談員やODAの広報を行う好機となり、行く先々で出会った方々から「ぜひ次は自分の子どもの学校へ話をしに来てほしい」等の依頼を受けることができた。

## 7. 諸経費

(1)交通費:52,120円

5月9日 ①JR山形駅—JR仙台駅 片道1,140円 ×2名 =2,280円

②JR仙台駅—JR青森駅 片道11,210円 ×2名 =22,420円

5月10日 ①JR青森駅—JR盛岡駅 片道5,940円 ×2名 =11,880円

5月11日 ①JR盛岡駅—JR秋田駅 片道4,100円 ×2名 =8,200円

② JR秋田駅—JR山形駅 片道3,670円 ×2名 =7,340円

(2) 宿泊費 8,600円 (2名分)

(3) 会場借料 8,000円(青森県水産ビル分)

(4) 日当 6,600円(2名分)

以上

【事業名】 NGO相談員出張サービス シリア紛争と国際協力

【団体名】認定NPO法人 IVY

画像名	5月8日山形会場	5月8日山形会場	5月8日山形会場	5月8日山形会場	5月8日山形会場	5月8日山形会場
写真						
何の写真か？/ コメント(あれば)	NGO相談員ポスターの掲示	右から阿部、安達、西村	ワークショップ	ワークショップ	ワークショップ	ワークショップ
画像名	5月8日山形会場	5月8日山形会場	5月8日山形会場	5月8日山形会場	5月8日山形会場	5月8日山形会場
写真						
何の写真か？/ コメント(あれば)	シリア難民支援活動報告	シリア難民支援活動報告	シリアの小学校の教科書紹介	シリアの小学校の教科書紹介	質疑応答	質疑応答
画像名	5月9日仙台会場	5月9日仙台会場	5月9日仙台会場	5月9日仙台会場	5月9日仙台会場	5月9日仙台会場
写真						
何の写真か？/ コメント(あれば)	ODAとNGO相談員の説明	相談時間	相談時間	シリア難民支援活動報告	シリアの歴史、今回の紛争について	参加者
画像名	5月10日青森会場	5月10日青森会場	5月10日青森会場	5月10日青森会場	5月10日青森会場	5月10日青森会場
写真						
何の写真か？/ コメント(あれば)	ODAとNGO相談員の説明	質疑応答	相談時間	難民支援について	ワークショップ	試食会
画像名	5月10日盛岡会場	5月10日盛岡会場	5月10日盛岡会場	5月10日盛岡会場	5月10日盛岡会場	5月10日秋田会場
写真						
何の写真か？/ コメント(あれば)	ODAとNGO相談員の説明	相談時間	質疑応答	参加者	ODAとNGO相談員の説明	ODAとNGO相談員の説明
画像名	5月11日秋田会場	5月11日秋田会場	5月11日秋田会場	5月11日秋田会場	5月11日秋田会場	5月11日秋田会場
写真						
何の写真か？/ コメント(あれば)	ODA、協力隊OVの紹介	協力隊OVによるシリア紹介	ODAとNGO相談員の説明	協力隊OVによる試食会	質疑応答	地元の協力者の渡部さん(JOCV)

平成 26 年 6 月 6 日

外務省国際協力局  
民間援助連携室長 殿

(特活) 横浜 NGO 連絡会

NGO 相談員による出張サービス実施報告

NGO 相談員による出張サービスを下記のとおり実施いたしましたのでご報告いたします。

記

1. 企画名：「かながわ国際交流まつり」における相談対応サービス  
\* かながわ湊フェスタと合同開催
2. 出張者氏名：小俣典之
3. 依頼元／主催等団体名： かながわく国際交流まつり実行委員会
4. 実施日時：平成 26 年 5 月 25 日 10 時 00 分～15 時 30 分
5. 実施場所：沢渡中央公園・横浜市民防災センター  
(住所：横浜市神奈川区沢渡 4-7)

6. 企画の概要

横浜市神奈川区の区民を対象とした国際協力・国際交流イベント会場に NGO 相談コーナーを設置し、相談業務を実施した。本イベントは、「かながわ湊フェスタ」と同時開催された。天候にも恵まれ多くの来場者でにぎわった。

\* 来場者数：市民、イベント参加者 約 4,000 人

7. 相談件数：15 件

8. 所感および効果

当該イベントに参加をした NGO や国際協力への関心層だけではなく、多様な市民団体が参加をしているイベントが同時開催されているために、様々な層への相談対応をすることができた。日頃、NGO 活動やボランティアに関心がある来場者が、相談ブースがあるとは知らずに通りかかり、そのまま立ち寄るケースも多かった。

また、本イベントへは数年前から参加をしているが、中には、毎年相談に訪れる団体もあり、継続して参加をすることの意義を感じた。

9. 当日の様子



以上

## 2014（平成 26）年度 NGO 相談員出張サービス報告書

報告者：（特活）関西 NGO 協議会 黒河内政行

### 1. 企画名：

「バザー20周年記念&使用済み切手運動 50周年記念 第20回関西 JOCS バザー」  
NGO 相談員ブース出展

【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他（ ）】

実施日時：平成 26（2014）年 5 月 10 日（土） 11 時 00 分～15 時 00 分

実施場所：大阪聖パウロ教会 1 F、2 F（大阪市北区茶屋町 2-30）

主催：公益社団法人 日本キリスト教海外医療協会（以下 JOCS）関西事務局

出張者氏名：榛木恵子、黒河内政行



### 2. 実施内容：

JOCS は、1960 年より、アジア、アフリカで保健医療福祉活動を行っている。関西事務所のバザーは 20 回目の開催となり、企画、運営を約 70 名のボランティアが担っている。来場者層は、主に JOCS 会員、使用済み切手運動協力者などである。

入口付近に、使用済み切手の受取ブースがあり、活動の説明や派遣医療従事者の活動紹介が各階の壁に展示されている。年に一度支援者が集い、物品の購入だけでなく、活動の現状を知り更にバザーの収益が医療保健協力の資金となっている。当会はバザー会場の 2 階に NGO 相談ブースを出展し国際協力全般に関する質問・相談を受付けた。

### 3. 集客人数または相談対応件数：

参加者：約 300 人（主催者発表）

### 4. 所感及び効果等：

NGO 相談員制度に関する質問が多数であった。元 NGO スタッフに NGO 相談員制度について詳しく説明すると、各 NGO がイベントやセミナー等に出張サービスを活用することで、参加者に国際協力の現状を伝えることできる。知らない NGO が多いので広報を充実させてほしいとの提案を受けた。



JOCS ボランティアより NGO やスタディツアーに関する質問もあり、バザーのような形態においての出張サービスのあり方を考える機会となった。

来場者には、2013 年度 NGO 相談員チラシを約 120 枚配布することができた。

以上

## 相談員企画型出張サービス実施報告書

1. 企画名：「神戸学院大学での国際協力及び地域コミュニティについての講演」  
※出張形態：講演
2. 出張者：坂西卓郎（(公財)PHD協会職員）
3. 実施日：2014年5月29日（木）9：00～10：30
4. 場所：神戸学院大学 ポートアイランドキャンパス  
（神戸市中央区港島 1-1-3）
5. 対象者：神戸学院大学の薬学部を中心とした学生 67名
6. 実施報告：神戸学院大学の非常勤講師の飛田敦子氏より依頼があり、NGO 相談員として国際協力についての講演を行うこととなった。  
講演内容はとしては学生向けに国際協力や国際交流について丁寧に説明を行った。まず冒頭に NGO 相談員制度の解説と国際協力概論を行い、その後、じゃんけんを用いたワークショップを行い、国際協力について理解を深める時間を持った。最後に実際の国際協力活動の解説と本授業の主テーマである地域コミュニティ論について具体例を交えて解説を行った。  
対象者が上記のように薬学部を中心とした学生で、かつ1年生が多いということもあり、入門的な内容を丁寧に説明した。参加者の感想としては「私も将来、海外にもつながる、人のためになる仕事をしたと感じた」、「今度できたらインターンに参加したい」、「もっとグローバルで積極的に外国を目を向けることが大事」という前向きな意見が多くあった。  
講演終了後に何名かの学生が「スタディツアーに参加したい」、「国際協力に関わりたい」ということで個別に話を聞きに来てくれ、NGO 相談員として国際協力に関心を持ってもらうということは一定うまくいったと思われる。  
また本制度の趣旨からしても、薬学部などの専門性を有する方は今後の国際協力の担い手として期待が持てる場所であり、そういった方々に国際協力の概要やそれに至る道筋を示すことができたことは有益だったと感じている。一年生が中心ということで、大学生活もまだまだ十分時間が残されている。授業後に個別相談があった方のようにぜひツアー参加など、国際協力の活動に一步を踏み出すことを期待したい。
7. 添付画像：別紙に当日の様子を3枚添付



「神戸学院大学での国際協力及び地域コミュニティについての講演」の様子①

神戸学院大学の学生に国際協力及び NGO 相談員制度についての説明をしているところ。



「神戸学院大学での国際協力及び地域コミュニティについての講演」の様子②、③

②、③ワークショップを行い、国際協力について考える場をもち、学生たちに意見を聞いているところ

NGO 相談員による出張相談実施報告書

1. 出張相談概要

団体名：特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン

出張者：事業部 上田 はるか

企画名：シリアの難民キャンプにおける食と教育 【形態：講演】

実施日時：2014年5月28日（水）18：00-20：30

実施場所：大阪大学豊中キャンパス セミナー室

実施内容：大阪大学の大学生を対象に、シリア難民キャンプにおける食や教育の問題や実施されている支援について講演を行い、講演の内容を踏まえ、設定されたケースについてどのような支援がNGOとしてできるかについてワークショップを開催した。

依頼元/主催等団体名：大阪大学国際食育団体おむすび

集客人数：約50名

2. 実施内容

まず2011年から続くシリア危機の背景やそれを取りまく国際情勢及び和平への動きについて説明した。その後、シリア危機が及ぼしている影響について、シリア国内に約650万人に上る国内避難民がおり、周辺国であるトルコ、レバノン、ヨルダン、イラクに合わせて約270万人の難民が流出している状況について地図を見ながら説明した。

主題であるシリア難民に対する食と教育支援については、難民の法的地位等、概要について説明した後、イラクにおけるシリア難民の流入、この事態に対する難民キャンプにおける食糧支援及び教育支援について、当団体の支援を例にその内容について写真を見ながら説明した。

講演内容に基づき、簡単なケースを設定し、ワークショップを合わせて実施し、どのような分野で支援をするか、その際どのようなことを考慮しなければいけないかについて、グループで議論してもらい、発表してもらった。



(スライドを使った講演の様子)



(質疑応答の様子)



(ワークショップの様子)



(ワークショップの発表の様子)

### 3. 所感および効果等

- 和平交渉が行き詰まり、長期化するシリア危機の影響について、イラクのシリア難民キャンプにおいて、日本の NGO がどのような支援を実施しているのかについて、伝えることができた。
- 講演内容に基づいて、ケースを設定し、参加者自身が NGO 職員と想定した場合、どのような支援ができるのかについて、ワークショップを通じて考えてもらう機会を作ることができた。ケースに隠されたヒントを拾い、現地における調整や周辺地域の経済を活かす等、短い時間ではあったがよく考えられた発表内容だった。
- 講演内容から発展して、緊急期における教育に関する支援内容の重要性や、教育支援に関する最低基準の有効性といった専門的な質問や、難民の第三国定住とは何か、NGO の主な資金源は何か、ボランティアの人は何をしているのか等、多様な質問があった。
- 大阪大学の学生だけでなく、大学の先生や、近隣大学大学院の院生の参加もあり、立ち見ができるほどの集客で、多くの方々に NGO による支援について伝えることができた。

※今回の講演は、NGO 相談員としての講演であることを説明した。

以上

報告者：ピースウィンズ・ジャパン  
事業部 上田はるか

## NGO 相談員による出張相談実施報告書

### 1. 出張相談概要

団体名：特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン

出張者：ポーマン 真理子

企画名：ミャンマーについて知ろう

【形態：講演】

実施日時：2014年5月30日（金）9:40-10:25

実施内容：ミャンマーで実施している水事業の紹介を中心に、  
現地の生活や文化についてミャンマー駐在員が説明する。

依頼元：広島県神石高原町立 油木小学校  
(6年生 14名)

### 2. 実施内容

まず最初にピースウィンズ・ジャパンの団体紹介と NGO についての説明を行った。次に、ミャンマーの生活や文化、宗教の様子を写真を見せながら説明した。また、当団体が水事業を行う背景として、ミャンマーでは非常に洪水が多いという状況や清潔でない水を生活用水に使用している状況を説明した。職員だけが一方的に話をするのではなく、例えば「どこからミャンマーの人々は水を汲むのか？」について一緒に考えてもらうなど、より生徒が授業に参加しやすいように工夫した。加えてミャンマーの人々が普段行っている水汲みを体験してもらうために、生徒に水が入ったバケツを教室の端から端までを運んでもらった。最後の質問の時間では「なぜミャンマーの人々はバケツを頭の上に置いて上手に運べるのか？」「大人に仕事はあるのか？」「ミャンマーの平均寿命は？」など多数の質問が出た。



### 3. 所感および効果等

ミャンマーという国が東南アジアにあること、そして国の文化、宗教や民族について、また、村での生活の大変さなどについて伝える事ができた。

ミャンマーの村人たちが行っている水汲みを体験してもらうために、生徒にバケツに水を入れて教室を歩いてもらった。こうした体験を通じて、生徒達は水汲みの大変さをより理解できたと感じた。村での水源の種類などについて、安全な水を得るということがどんなに大変なのかという問題についても話し合う事ができた。また写真を通じて洪水が多い地域での村の家屋の特徴についても生徒達と一緒に考える機会ができたのは良かったと感じる。

加えて、職員自身の国際協力の仕事に就いた経緯なども話す事ができ、国際協力の仕事を生徒に伝えるとても良い機会になった。

※今回の講演は、NGO 相談員としての講演であることを説明した。また、H26 年度 NGO 相談員のポスターがまだ届いていないため、H25 年度のポスターを配布し H26 年度も NGO 相談員であることを学校側に伝えた。

報告者：ピースウィンズ・ジャパン  
ミャンマー駐在員 ポーマン 真理子

## (特活)NGO 福岡ネットワーク:NGO 出張相談報告書(平成 26 年 5 月)

団体名:(特活)NGO 福岡ネットワーク

企画名:「第 1 回フェアトレードセミナーin 佐賀大学～フェアトレードを知ろう・学ぼう・考えよう～」

実施日時:平成 26 年 5 月 10 日(土)15 時 30 分～18 時 30 分

場所:佐賀大学医学部看護学科棟 5201、5202

### (ア) 実施内容

本企画は、佐賀大学の学生を対象に、国際協力活動やフェアトレードについて理解を深め、参加してもらうきっかけづくりを目的に開催された。セミナーのはじめに、主催団体である学生団体が自分たちが目指そうしている活動について説明を行い、次に活動の柱となるフェアトレードについて理解を深めて貰うための学び合いを行った。その後、より理解を深めるために「貿易ゲーム」を行い、世界の不平等、貿易の仕組み、経済格差などについて体験をしながら学んだ。

最後に NGO 福岡ネットワークの役割や活動、NGO 相談員制度などについて紹介し、途上国の現状や私たちにできる国際協力に関する講演を行った。

### (イ) 集客人数

来場者数:35 人

### (ウ) 所感及び効果等

本企画は、佐賀大学で昨年度の講義(当団体職員が担当)を受けた学生の一人が企画し実現したセミナーである。講義終了後に相談を受け始め、国際協力に関わりたいが足踏みしていた気持ちから行動へと気持ちが変わるようになり、このセミナーが実現した。

自分たちで出来る国際協力としてフェアトレードユニバシティー認定を目指し、佐賀大学からスタートしてゆき、いずれ佐賀市内へ広げていくことで一般の人たちを巻き込んだ活動を展開していきたいと想いを寄せている。活動は一人から始まったが、とあるきっかけで一人の仲間に出会うことができ、その後は活動が活発化し、短期間ながらも今回のセミナーが企画・実現されるに至った。今回の企画を通して、一人より二人の大切さ、何より仲間の必要性・大切さを知ることができたのではないかと感じている。セミナー終了後には、主催者(相談者)へ協力者からの申し出があったことは最大の収穫だったと感じている。

出張サービスで講演ができたこと、何より主催者の熱意と行動によって参加者は胸を打たれ、国際協力やフェアトレードへの理解・参加に繋がったのだと感じている。今後も引き続き見守って行きたいと考えている。



講演の様子



ワークショップの様子

## (特活)NGO 福岡ネットワーク:NGO 出張相談報告書(平成 26 年 5 月)

団体名:(特活)NGO 福岡ネットワーク

出張サービス企画名:「世界一大きな授業@九州大学」

実施日時:平成 26 年 5 月 11 日(日)13 時 00 分~17 時 30 分、5 月 18 日(日)13 時 00 分~17 時 30 分

場所:九州大学箱崎キャンパス共通講義棟 207 教室(11 日)、同中央図書館会議室(18 日)

### (ア) 実施内容

「世界一大きな授業」とは、世界の現状に目を向け、教育の大切さを同じ時期に考える地球規模のイベントであり、ワークショップを通して世界の教育の現状を学び、日本政府への要望を取りまとめていく内容になっている。当団体は各グループのファシリテーターとして、ワークショップの進行補助や教育問題等に関する質問への回答を行った。

### (イ) 集客人数

参加者数:60 人

### (ウ)所感及び効果等

イベントは、1 日 2 回×2 日間の計 4 回の講座を行う形で実施したが、どの回でも小学生や大学生、一般まで幅広い層の参加者に集まっていたことができた。結果、ワークショップにおいて多様な意見や考え方が出されることとなり、各回とも充実したワークショップとなった。

参加者は、貧困や紛争のために世界で 5700 万人もの子どもが小学校に通っていないことなどをクイズで学んだ後、文字が読めなければ働きたいと思った時に求人広告を読むこともできないことをゲームを通して体験。また、パキスタンで女子教育の必要性を訴えてイスラム武装勢力に銃撃された女性に関する記事を読んで感じたことを話し合った。最後には、世界中の子ども達が学校に通えるようになるために大切だと思う行動について考え、そうした世界を作るために日本政府に伝えたいことやお願いしたいことを書き出しあった。

ワークショップの進行は大学生が担当したため、進行の補助を行ったり、参加者から寄せられる質問(なぜ学校に通うことができないのか?といった基礎的なもの)に応じたり、現地での実態などについて補足説明を行った。通常は敷居が高く見られがちな国際協力のイベントだが、今回のイベントは子どもから大人まで楽しめる内容として実施したため、幅広い層の参加者が見られた。普段は世界の教育事情について意識することはないという家族連れも、お子さんと一緒に楽しく考えることができ良かったという感想を聞くことができた。このように、子どもと両親が楽しみながら世界の課題について考えるきっかけとなる素晴らしいイベントであると感じた。



ワークショップの様子



発表の様子